

巻頭言

滋賀医科大学医学部看護学科 学科長

桑田 弘美



大学の紀要は、大学院生や若手研究者の研究成果の公表や学会論文等の投稿へのワンステップとして利用されることが多いものです。文部科学省では、研究者間における研究資源及び研究成果の共有、研究成果の一般社会への発信、啓発及び次世代への継承、研究活動の効率的な展開のために、学術情報基盤の整備について10年ほど前から検討し、科学研究費等の競争的資金による研究成果のオープンアクセス化、機関リポジトリの活用による情報発信機能の強化などを挙げています。機関リポジトリはセルフアーカイビングによる学術論文等の掲載先の一つであり、研究者が研究成果を発信しやすい場として活用できるものです。大学・研究機関が主体となって、所属研究者の学術論文等の研究成果を収録、蓄積、提供するシステムのため、紀要に論文等を掲載することで、研究成果を公表しやすくなります。

滋賀医科大学医学部看護学科教員の研究に対する関心は高く、それは科学研究費補助金の採択率にも影響を与え、本年度は70%を超えています。教員の組織自体は大きくありませんが、応募率はほぼ100%となっており、それぞれの教員がそれぞれの研究活動を行い、成果を上げていることを実感しています。

また、滋賀医科大学看護学科ジャーナルは、最近では、地域や本学医学部附属病院看護部のスタッフの皆様からも投稿されるようになってきました。臨床や地域の看護職の方々が私たちと協同して行った研究や、それまでの看護実践の振り返りを報告し、次代に繋がる学びの場ともなっています。本学の看護学科ジャーナルの査読は丁寧に行われていますし、2011年から電子ジャーナル化され、アクセス数も多いため、私たちの研究成果が他の研究者にとっても有用な論文として今後も活用されるよう、質の高い論文を堅実に発表していきたいと思っています。

私は、看護学科教員になりたての頃、ある先生から「大学教員の役割は、単に既存の内容を教授するだけではなく、自分の研究成果を学生に還元することである」と講義を受けました。この言葉はずっと心に深く刻まれ、これまで研究に協力してくださったお子様やご家族の皆様が、できるだけ早く研究の成果が世の中に公表されること望んでいらしかったことを考えると、講義や紀要論文として、大学教育に還元していくことも不可欠な活動だと実感しています。

看護学科ジャーナルは、教育や看護実践におけるアクセスしやすい研究成果として、多くの人々と共有できる学術雑誌です。今後成長していく研究やこれまでの成果を振り返る研究発表の場として、発展するジャーナルとなることを期待しています。

平成26年2月